

中国語式辞スピーチの構成要素と展開パターン —日本語式辞スピーチとの比較—

深澤のぞみ
陳会林

1. グローバリゼーションとパブリックスピーキング

グローバル化の進む世界で、公に向けた言葉の重要性が言われ、人々に大きい影響を与えるようになっていく。本稿では、このように公的に自分の考えなどを伝えようとするパブリックスピーキング（Public Speaking）について調査分析を行う。そこでまず、日本語のパブリックスピーキングの定義を、ヒルマン・小林・深澤（2009）の「ある程度改まった場所で、一人の話し手が対象となる複数の聴衆に、自分の責任において自分の考えを論理的にまとめて伝えようとする」と定めて議論することにする。

世界で注目されたパブリックスピーキングの事例としては、まず2009年1月のアメリカ合衆国オバマ大統領の就任演説が挙げられる。最近では指導力に陰りが見られると言われているが、当時は就任演説にアメリカ国民だけでなく、世界中の人々が熱狂したことは記憶に新しい。また、2011年に死去したアップル社設立者のスティーブ・ジョブズは、2005年に行ったスタンフォード大学卒業式で式辞スピーチを行い、現在でも動画で見続けられている。このスピーチで語られた Stay Hungry. Stay Foolish というフレーズは、今もなお、人々に語り継がれている。

最近では、TED talks¹が話題となっている。これは、TED (Technology Entertainment Design) が主催する会議で、様々な分野の人々が自説を伝えるために行ったプレゼンテーションを動画で配信しているもので、その印象的な内容や人々を惹きつけるプレゼンテーション技術が話題となっている。また TED talks のマニュアル本も発刊され、評判になった。

日本でもパブリックスピーキングの持つ影響力が、強く意識されるようになってきている。たとえば長く政権を維持した小泉純一郎元首相は、演説の「上手さ」に定評があった。また平田・松井（2011）は、本当に国民に届く言葉で政策を語るべきだという信念で鳩山由紀夫元首相の所信表明演説文案を作成した様子を述べている。これらのことは、日本人母語話者にとってのパブリックスピーキングの重要性が増してきたことを表すとともに、日本において日本語を使用する外国人日本語話者が、外交官

や首長の通訳などの高度人材として高い日本語力を活かして活動する場合に、意識すべき課題となることを示している。また、日本人が海外で活動しようとする場合も、日本語のパブリックスピーキングの方法が世界で受け入れられるかどうか、関心を持つべき課題である。これらのことを明らかにするためには、パブリックスピーキングに含まれるジャンルと、それぞれの特徴、文化や言語の違いによる異なりを調査することが必要となる。

そこで本稿では、パブリックスピーキングの1つのジャンルである式辞スピーチ（いわゆる挨拶スピーチ）を取り上げ、中国語で行われた式辞スピーチの構成要素や展開パターンの分析を行い、特徴を明らかにする。また日本語の式辞スピーチと比較し、文化や言語による違いの抽出も試みることにする。これらの成果は、グローバル化時代におけるパブリックスピーキングとはどのようなものかを考えていく上での基礎資料となることが期待できる。

2. 先行研究

2.1 日本語パブリックスピーキングに関する研究

日本語のパブリックスピーキングを取り上げた研究はそれほど多くない。上手にスピーチやプレゼンテーションを行う方法といったマニュアル本は極めて多く出版されているのに比して、研究テーマとして取り上げられることはあまり多くないと言える。

日本語のパブリックスピーキングを取り上げた研究としては、まず、平井（1992）が挙げられる。平井（1992）は、福沢諭吉が『学問のすすめ』などで演説の重要性を主張していることを引用しながら、福沢のスピーチ観は、西欧的なパブリックスピーキングであると指摘している。それは、福沢がある体裁を備えた話し方が人を感動させることができると考えていたこと、そして演説や談話（スピーチ）は必ず「人と共に」すること、即ち‘public’なものであると記しているからだとしている。

東（2006）は政治家の話す言葉の影響力に焦点を当て、歴代の日本の首相の演説を言語学的に分析している。そして、小泉純一郎元首相の演説の特徴を、つながりや経験の共有、共感を作り出す「聞き手中心」のスタイルであるとし、それが高い支持率を得続けた理由の一つである可能性があると結論付けている。さらに東（2014）は、私たちの日々の言語生活には、自分と親しい人たちの間で使われるインフォーマルな言語を「私的言語」、さほど親しくない人たち、つまりソトの人たちとの間で使われる「公的言語」に分かれているとした上で、最近はLINE²などのネット上でのやり取りも含めて親しい間柄での濃密なコミュニケーションを取るのが得意な若者が増えている一方で、「公的言語」を回避しようとする現象があると述べている。そしてグローバル化が進む時代では、「私的言語」と「公的言語」のスムーズなスイッチが今後必要なスキルだとも述べている。そのためにも、パブリックスピーキングそのものの

の特徴や、言語差や文化差への関心が必要なことになるであろう。

日本語のアカデミックプレゼンテーション（学術口頭発表）を分析した研究はいくつか存在する。野口他（2006）が、ジャンル分析の手法を用いて、工学系の修士論文発表の質疑応答の構成を分析している。また林他（2009）が、工学系修士論文口頭発表の全体を、同じくジャンル分析の方法で分析している研究がある。

2.2 日本語の式辞スピーチの特徴

式辞スピーチをパブリックスピーキングの一ジャンルとして扱い、典型的な構成要素と展開パターンを明らかにした研究には、深澤・ヒルマン小林（2012）が挙げられる。この論文では、式辞スピーチの発話文を、Swales（1990）のジャンル分析の手法を基にして、話し手の表現意図である「ムーブ」とその下位分類の「ステップ」によって分析している³。まず式辞スピーチの構造を大きく導入部、主題部、結び部に分け、各部分に見られるムーブとステップの特徴を明らかにした。それによると、開始部と結び部では〔開始挨拶〕や〔自己紹介〕、〔乾杯〕や〔終了宣言〕などの限定されたムーブ・ステップがおもに出現していること、また、主題部では〔事実提示〕〔報告〕〔持論提示〕などの後に、〔希望〕や〔抱負〕のムーブ・ステップが現れて、終了部へ移行する傾向があるという。特徴的なこととしては、〔対人配慮〕や〔言及〕のムーブ・ステップがスピーチ全体に繰り返し出現していることが挙げられており、話し手が聴衆との一体感を作り出そうとしている表れだとしている。これは上記の東（2006, 2014）に述べられている聞き手中心のスタイルとも合致する結果である。

深澤（2013）では、パブリックスピーキングに含まれるものであっても、ジャンルが異なる式辞スピーチとアカデミックプレゼンテーションとで、聴衆重視の仕組みを比較し、双方とも聴衆を意識する話し方をするものの、その方法は異なることを明らかにしている。

そこで本稿では、上述の深澤（2013）におけるパブリックスピーキングのジャンルによる特徴の異なりに加えて、言語や文化による差もある可能性を考え、深澤・ヒルマン小林（2012）の手法を用いて、日本語以外の式辞スピーチの特徴を明らかにすることにした。そのために、まずその第一歩として、中国語の式辞スピーチの分析を試みた。

3. 調査の概要

3.1 対象データ

本稿で分析の対象としたのは、中国国内で2009年から2014年に行われた国際交流イベントなどで主催者や来賓が行った中国語による式辞スピーチである。インターネットの動画で公開されているものを中心に収集した。表1に概要を示した。

3.2 分析方法

収集したデータをまず中国語で文字化の作業を行った。中国語の文字化作業は中国語の特徴を考慮して行う必要があり、中国の自然会話を文字化するための方法である宇佐美（2007）に従った。本稿では「文」を分析の基本単位とすることとし、分析資料は文ごとに改行して作成した。式辞スピーチの独話性と文体上の特徴を考慮して、文を特定する際には、表現形式と発話意図の双方を判断基準として用いた。表現形式として、①ポーズ、②主語の一貫性、③述語の性質（品詞等）の一貫性、④繰り返しの有無、の4つを判断基準に採用した。中国語の場合でも、日本語と同様、形式上で一文と判断されていても、文が連綿と長く発話意図が複数含まれている場合がある。その際には、上記の4つの判断基準によって発話意図ごとに独立した文として扱うことにした。そして、この作業の終了後、日本語訳をつけて、分析の資料とした⁴。

表1 中国語式辞スピーチのデータ概要

番号	収集場面	話し手	長さ（単位 分:秒）
C01	学術交流行事	主催者	5 : 20
C02	新年会	主催者	2 : 15
C03	国際スポーツ大会	主催者	3 : 18
C04	学生スポーツ大会	主催者	2 : 09
C05	創立記念行事	来賓	4 : 17
C06	博覧会	関係者	3 : 47
C07	公益イベント	共催者	2 : 41
C08	イベント	主催者	3 : 07
C09	公益イベント	主催者	2 : 08
C10	国際映画祭	来賓	3 : 35

4. 調査結果

今回分析したデータは10の式辞スピーチで、すべての文数は170文であった。すべてのスピーチをその内容から、導入部、主題部、結び部分け、その内訳を調べたところ、導入部が32文、主題部が121文、結び部が17文であった。結び部にあたる部分が存在しないスピーチが1本だけあった。

今回調査した中国語のスピーチの文体は、あらたまった場で用いられるフォーマルな文体である。

4.1 中国語式辞スピーチを構成する要素

上述した文に、深澤・ヒルマン小林（2012）で挙げられているムーブ・ステップを参考に、どのような意図が現れているかを抽出し分類した。深澤・ヒルマン小林（2012）に含まれていないムーブ・ステップも現れたため、新しく加えたものもある。その結果を表2に示す。各部において、観察されたムーブ・ステップの種類および定型表現について以下に述べる。

4.2 導入部の構成要素

導入部に頻出するおもな要素としては、[言及]のムーブに含まれる[呼びかけ]，ムーブ[事実説明]のステップ[現状説明]，[対人配慮]のムーブに含まれる[歓迎][謝辞][祝辞]が挙げられる。

4.2.1 [開始挨拶]と[呼びかけ]

導入部では、[言及]ムーブのステップ[呼びかけ]から開始するスピーチが多く、今回調査した10のスピーチのうち、9つまでが[呼びかけ]から始まっている。そしてそのほとんどで、「尊敬的各位～」(C01, C03など：尊敬する～の皆様)⁵という定型表現が用いられていることが観察された。この[呼びかけ]は、深澤・ヒルマン小林（2012）における日本語式辞スピーチの導入部には含まれていない要素であり、中国語式辞スピーチの特徴だと言えるだろう。そして、[開始挨拶]のムーブに含まれる[挨拶]と[挨拶宣言]のステップが観察された。[挨拶]は、「大家上午好」(C06：皆さん、こんにちは)のような定型表現で構成されている。

4.2.2 [事実提示]

導入部では、まず上述の[呼びかけ]がなされた後、「今晚，我们相聚在中国，相聚在美丽的深圳湾。」(C04：今晚私たちは中国に集まり、美しい深セン湾に集まっています。)のように現在の状態について[現状説明]が行われる例がいくつか見られた。

4.2.3 [対人配慮]

まず[対人配慮]のムーブで、よく現れていたのは[謝辞]である。「表示衷心的感谢」(C01：心より感謝を表します)などが観察された。

次に[祝辞]では、「表示…最热烈的祝贺」(C05：心からの祝意を表します)という定型表現が使われていた。また[歓迎]は、「表示热烈的欢迎」(C03：心から歓迎いたします)のような例が見られた。

表2 中国語式辞スピーチに現れる構成要素（ムーブとステップ）

ムーブ	ステップ	パート別の出現数 全文数 170 (単位 文)			内容	典型的に現れる定型表現 () 内は日本語訳
		導入 32	主題 121	結び 17		
開始 挨拶	挨拶	4	-	-	定型の挨拶	下午好（こんにちは）
	挨拶宣言	2	-	-	挨拶の宣言	致以～的良好祝愿（～のご挨拶を申し上げます）
対人 配慮	謝辞	5	-	7	定型の謝辞	表示衷心的感谢（心からお礼を申し上げます）
	祝辞	3	-	-	祝辞表現	表示热烈的祝贺（心からお祝い申し上げます）
	歓迎	3	-	-	歓迎の表明	表示热烈的欢迎（心より歓迎いたします）
	謙遜	-	1	-	謙遜の表明	很荣幸地能够（大変光栄に思っております）
言及	呼びかけ	9	5	-	参加者へ呼びかけ	尊敬的～（尊敬する〇〇）
	言及・引用	-	4	-	話の引用や言及	～中的～（～の中の～は…）
進行	進行	1	1	1	話の進行の表現	现在，我提议（今，私は提案します）
表明	感想	1	3	-	話し手の感想表明	很高兴（とても嬉しいです）
	期待	-	7	-	話し手の期待表明	希望～（～していただきたいです）
	確信	-	5	-	話し手の確信表明	我相信～（私は～を信じています）
	抱負	-	7	-	話し手の抱負表明	我们将～（我々～していこうと思っております）
事実 提示	事実説明	-	25	-	事実の説明	～是～（～は～です）
	現状説明	4	35	-	現状の説明	今天，～了（今日は，～ています）
持論 提示	持論提示	-	12	-	話し手の持論提示	～というふうに思います
	義務提示	-	10	-	行動義務の提示	值得～（～すべきだと思っております）
働き かけ	提案	-	4	-	聞き手への提案	让我们～（～しようではありませんか）
詩的 機能	韻文	-	2	-	詩や韻文の紹介	
乾杯	乾杯	-	-	1	乾杯宣言	为～，干杯（～のために，乾杯）
終了 宣言	祈念	-	-	8	聞き手等への祈念	祝～，愿～（～ことをお祈りします）

4.3 主題部の構成要素

主題部に特徴的な構成要素としては、ムーブ〔事実提示〕のステップ〔事実説明〕や〔現状説明〕，それに〔持論提示〕のムーブの〔持論提示〕と〔義務提示〕のステップである。加えて、ムーブ〔表明〕の〔期待〕や〔抱負〕などもよく見られた。導入部に頻出した〔呼びかけ〕は、主題部でも繰り返し出現している。また、一例しか出現はしていなかったものの、〔詩的機能〕と名付けたムーブが観察された。これについては、詳細を後述する。

4.3.1 〔事実提示〕

スピーチをしているイベントが開催された経緯や、現状がどのようなになっているかを述べているムーブであり、〔事実説明〕や〔現状説明〕のステップが含まれる。

4.3.2 〔持論提示〕

〔持論提示〕のムーブには、スピーチをしているイベントに関連した内容で、話し手が持論として持っていることを述べる〔持論提示〕のステップが観察された。さらに、意志動詞を伴い「要～」（C01 など：～すべきです）という定型表現を使って、強い義務感を表明するステップ〔義務提示〕が観察された。

4.3.3 〔表明〕

スピーチの中で、話し手や話し手の関係する人々への期待を、「愿你们～」（C04：皆様に～ていただきたいです）のように述べる〔期待〕のステップや、「我们将～」（C10：私たちは～していきたいです）のように述べる〔抱負〕のステップが見られた。

4.3.4 〔詩的機能〕

今回収集したデータでは、対聯（ついでん）⁶と呼ばれる一対の句を作って披露し、祝賀を表現している箇所が観察された。一対の句が文字数や発音などの一定の規則に基づき作られているものである。これについては、話し手が伝えたいことの内容よりも、音韻の性質などを利用して伝えたメッセージそのものを前景化する言語の機能をヤコブソン（1973）が「詩的機能」と呼んだことに倣い、〔詩的機能〕のムーブと名付けた。〔詩的機能〕には、本稿でのデータに見られる〔韻文〕の他に、たとえば言葉遊びや駄じゃれのようなユーモアなども含まれると思われるが、今回の分析データには現れなかった。

4.4 結び部の構成要素

結び部には、〔終了宣言〕と〔対人配慮〕が現れ、特に、〔謝辞〕がスピーチの終

了に用いられていることが観察された。

4.4.1 [終了宣言]

〔終了宣言〕のムーブには、〔祈念〕がよく出現している。〔祈念〕は、イベントの成功や聞き手の幸福などを祈念するステップであり、「祝伟大祖国繁荣昌盛」（C02：偉大な祖国の繁栄発展をお祈りします）などのようなものが含まれる。

4.4.2 [対人配慮]

本稿で収集した10本のスピーチのうち7本が「谢谢大家」（C01：皆様、ありがとうございました）のような〔謝辞〕でスピーチを終了している。深澤・ヒルマン小林（2012）では、日本語のスピーチの場合、「皆様方のご健勝をご祈念申し上げ、お祝いのご挨拶とさせていただきます」のような終了が典型的だとしているが、今回調査した中国語のスピーチではこのようなタイプはなく、謝辞を述べてスピーチを終了させる例が多く現れた。

5. 考察

5.1 中国語式辞スピーチの典型的な展開パターン

本稿で収集した資料におけるムーブ・ステップの各要素の現れ方を観察すると、典型的な展開パターンが見られることがわかる。

まず導入部では、〔呼びかけ〕のステップが頻出し、〔挨拶〕や〔謝辞〕〔祝辞〕が現れることが多い。また〔呼びかけ〕の後に、ムーブ〔事実提示〕の中の〔現状説明〕のステップで、現在の状態についての説明をした上で、〔謝辞〕や〔祝辞〕が現れるケースも観察された。

例1）尊敬的孙会长，李主席，王秘书长，同志们，朋友们，乡亲们。在这阳光明媚，春风送暖的美好日子，我区第十七届科技之春宣传月活动正式启动了。在此我代表区委区政府，向活动的顺利举办表示热烈的祝贺。（C01：尊敬する孫会長，李主席，王秘書長，同志の皆さま，友人の皆さま，住民の皆さま。陽光にあふれ，春風が暖かく吹いているすばらしいこの日に，我が区の第十七回「科学技術の春」宣伝月間活動は正式に開始しました。ここで，区共産党委員会と区政府を代表して，活動が無事に開催できたことを心よりお慶び申し上げます。）

例1）では、まず会に集っている来賓や参加者に呼びかけを行っているが、重要な参加者については名前を呼び上げている。そして、活動が開始したことを説明した上で、祝辞を述べている。

ここで特徴的であったのは、日本語式辞スピーチに頻出する〔自己紹介〕が全く出現しなかったことである。深澤・ヒルマン小林（2012）には日本の式辞スピーチの導

入部では、〔自己紹介〕と〔祝辞〕などが一まとまりになっていることが多いことが報告されているが、中国の式辞スピーチは今回調査した範囲では、そのような形の展開は存在していない。中国でも日本でも、司会者があらかじめスピーチをする話し手を紹介しているはずだが、中国では重ねて名乗ることをしない一方で、日本ではあらためて自己紹介をした上でスピーチを開始する傾向があることがうかがえる。

主題部では、例2)のように、スピーチが行われているイベントに至る経緯の説明や現在の状況の説明などがなされることが多い。

例2) 刚刚过去的一年，我们在党中央，国务院坚强领导下，积极应对特殊背景和复杂局面，成功召开市第四次党代会，翻开了重庆发展新的一页。(C02: 過去の一年に，共産党中央委員会と国务院の強力なご指導のもとで，私たちは特別な背景と複雑な局面に積極的に対応し，みごとに重慶市第四回共産党代表大会を開催して，重慶市発展の新しいページをめくりました。)

また、話し手の持論が述べられることも多いが、本稿でのデータによく現れたのは、例3)のようにムーブ〔持論提示〕の中でも、「～すべきだ」という〔義務提示〕のステップが伴ったものである。

例3) 增强活动实效，把搞好宣传和改进作风结合起来，多深入基层宣传，多向群众学习请教，以务实的作风搞好宣传活动。(C01: 活動の実効を強めて，宣伝効果の追求と仕事のやり方の改善を結びつけて，現場に入り住民の声をよく聞いて，着実に宣伝活動を行わなければなりません。)

そして、主題部の最後のあたりで〔期待〕や〔確信〕〔抱負〕のステップが現れて、結び部へ移行する流れが観察された。例4)で〔期待〕，例5)で〔確信〕，例6)で〔抱負〕をそれぞれ例示する。

例4) 愿你们喜欢深圳的热情与活力。(C04: 皆様が深センの情熱と活力を好きになることを願っております。)

例5) 我们相信，在政府的大力支持下，在业内企业不断地开拓进取下，以及各界的关心和帮助下，中国的网络文化产业一定会迎来更加蓬勃的明天。(C06: 政府の強力なご支持，業界企業の弛まぬ努力，および各界のご高配のもとで，中国のインターネット文化産業が必ずもっと明るい明日を迎えることができることを私達は信じています。)

例6) 新浪愿携手在场的各位嘉宾与广大网友，共同编织一个属于你我的“中国梦”。(C08: 新浪はご在席のご来賓の皆様とユーザーの皆様と手をつないで，ともに私達の「中国の夢」を作り出していきたいです。)

最後に、結び部ではほとんどのデータでステップ〔祈念〕か〔謝辞〕，あるいは両方のステップが出現していることが観察された。

以上述べてきたことから、中国の式辞スピーチの典型的な展開パターンをまとめる

と図1のようになった。

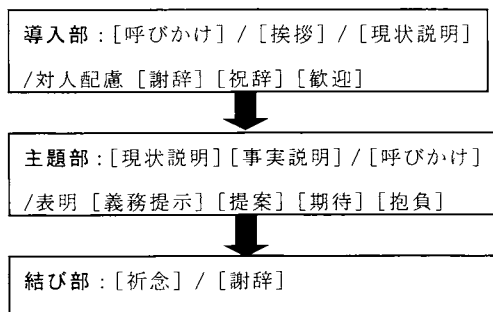


図1 中国語式辞スピーチの展開パターン

5.2 中国語式辞スピーチと聴衆重視の仕組み

5.2.1 中国語式辞スピーチにおける聴衆重視の仕組み

1. でも述べたように、スピーチはパブリックスピーキングの一ジャンルである。そして、パブリックスピーキングは聴衆に伝えたい事柄を伝達する活動であるため、聴衆を重視するための仕組みを含んでいると言える。前述した東（2006, 2014）も、政治家の話す言葉の影響力には、つながりや経験の共有、共感を作り出す「聞き手中心」のスタイルが重要だと指摘している。しかし、聴衆をどのように重視し、取り立てていくか、その仕組みはジャンルごとに異なり（深澤・ヒルマン小林 2013）、さらに、聴衆重視の仕組みには言語差や文化差が存在する可能性もある。その点について、検討していきたい。

まず中国語式辞スピーチによく現れているものとして、[言及]のムーブに含まれる[呼びかけ]のステップがある。これは前述した通り、本稿で扱ったデータのほとんどが、導入部で[呼びかけ]から始まっていたが、それだけではなく、半数のデータで主題部の途中でも[呼びかけ]がなされている。

例7) 市民朋友们。幸福生活要靠辛勤劳动, 和谐家园需要合力创造。让我们牵手并肩, 锐意进取, 共同抒写 2013 年新的辉煌。(C02: 市民の友人の皆様。幸せな生活をするのには懸命な労働が必要です。調和が取れた社会大家庭の構築は皆様の協力が必要です。手を繋ぎ肩を並べて、鋭意に進歩し、ともに 2013 年の新しい輝きを描こうじゃありませんか。)

例8) 朋友们。今晚让我们共同见证华人经济领袖的变革与超越。今后让我们一同参与这个伟大时代的变革与超越。(C09: 友人の皆様。今夜、華人経済界の権威者たちの変化と超越を自分の目で見ましょう。今後、この偉大な時代の変革と超越と一緒に参加しましょう。)

例7)は主題部の終わり近くに出てきている部分だが、まず「市民の友人の皆様」と呼びかけ、幸せのためには懸命な労働が必要だと話し手の持論を述べた上で（〔持論提示〕のステップ）、「新しい輝きを描こう」とムーブ〔働きかけ〕のステップ〔提案〕がなされていることがわかる。

また、例8)でも、「友人の皆様」と呼びかけた上で、〔提案〕のステップを用いて「自分の目で見ましょう」「一緒に参加しましょう」と働きかけを立て続けに行っている様子が見てとれる。

深澤・ヒルマン小林（2012）によると、日本語の式辞スピーチでの聴衆重視の仕組みとしては、聴衆に関連のある事柄や、「先ほど来、〇〇（人名）会長からも△△（人名）知事からもお話ございました」のように、自分以外の話し手の話した内容について述べる行動がよく見られ、〔言及〕ムーブの〔言及〕や〔引用〕のステップが多く出現することが特徴だという。これは、スピーチが行われる「場」で起こったこと、あるいは起こっていることを話し手と聞き手が確認し共有するという意味がある。それによって、前の話し手と現在の話し手である自分の話とのつながりを印象づけ、話し手と聞き手、さらには話し手と話し手といった様々な方向での一体感を作り上げようとしているように思われる。

一方中国語式辞スピーチでは、〔言及〕ムーブの中でも〔呼びかけ〕ステップが頻出し、これは、これまでの経緯を理解してもらうだけでなく、「今ここ」にいて、「今ここ」で経験すること、それらを話し手と聞き手が共有しているのだということを強調する意図があると考えられる。さらには〔持論提示〕や〔義務提示〕のステップの後に、〔提案〕が出現することから、強力に聴衆に呼びかけ、共同での行動を強く働きかけていく様子が見えてくる。日本語式辞スピーチが、その場の一体感をいろいろな方向からじわじわと作り上げようとするのとはだいぶ異なっている。

5.2.2 〔詩的機能〕と聴衆重視の仕組み

今回収集したデータには、中国の名門大学の1つである清華大学の100周年記念を祝して、「対聯」を作って披露している場面が観察された。例9)に示す。対聯では、一對の句が文字数や発音などの一定の規則に基づき作られている。

例9) 資自強而載物，砥礪同行，百齡清誉称棠棣。取兼容以开新，交融共进，万卷华章照古今。（C05：自力を以って強く度胸を大きくし、鍛え磨きながら同行して、百年の清らかな名誉をニワウメと称えられ、包容の精神を以って新天地を拓き、融け合いながら共に進歩して、万卷の詩文が古今を輝かすことができる。※清華大学の「清華」が読み込んである。）

中国では文字数と文法構造が揃っている短文を幾つか並べる手法が、スピーチに気魄を感じさせるための手段としてよく用いられることがある。例9)は、これが独立

して、ムーブ〔詩的機能〕の〔韻文〕ステップを成していると考えられる。

本稿のデータでは、上記のような短文の並列使用の中でも、特に四文字短文が頻繁に使われていた。たとえば、例 10) では、四文字短文（下線部）が重ねて使われていることが観察できる。

例 10) 半个世纪以来，各国各地区大学生运动员在赛场上奋力拼搏，勇创佳绩，展现了朝气蓬勃，昂扬向上的青春风采。(C03:半世紀以来，各国各地域の大学生選手は競技場で力を尽くして優秀な成績を収め，努力前進で生気に溢れている青春の姿を見せました。)

四文字短文がよく使われる理由として、劉・邢（2000）において、形式面では、簡潔で呼応し合っており、均斉美が感じられること、意味としては、認知されやすい構造のため、意味を理解しやすく覚えやすいこと、そして音韻の面では、リズムが強く、韻律美が感じられやすいことが挙げられている。

これらの手法は、聴衆へ独特のリズム感をもって働きかけ、スピーチの印象を強く持たせることにつながっていると思われる。

以上見てきたように、中国語の式辞スピーチでは、日本語での式辞スピーチにおける聴衆重視の仕組みとは異なるストラテジーを用い、聴衆に働きかけがなされ、聴衆を強くスピーチに巻き込んでいる様子がうかがえる。

6. おわりに

グローバル化の進む世界で、パブリックスピーキングの重要性が叫ばれるようになっていくが、パブリックスピーキングに含まれるジャンルや言語によって、構成要素や展開パターンに異なりがあることは、あまり普段意識されることがないのではないだろうか。本稿は、中国語式辞スピーチの特徴をジャンル分析の手法で明らかにし、さらに日本語式辞スピーチとの比較をしながら、スピーチにおける聴衆重視の方法についても考察した。その結果、中国語式辞スピーチは、スピーチ構成の方法や、話し方に勢いを持たせる手法など、日本語式辞スピーチとは異なる部分があることが明らかになった。中国語以外の言語でも、また別の違いがある可能性があるし、ジャンルの違いによっても差がある可能性もある。それは今後の課題としたい。

昨今では国家間や文化間での軋轢が起こりがちであり、日本も近隣諸国との難しい局面に困惑する場面が多い。グローバル化の時代で活動する高度人材としての外国人日本語使用者にとってはもとより、世界で活躍する日本人にとっても、摩擦を起こさずに同時に受け入れられやすい自己表現をする必要がある。そのためにどのような教育が必要なのか、さらに調査を発展させていきたいと考えている。

<付記>

本研究は、平成 25 年度科学研究費補助金（基盤研究（C）「グローバル化時代の自己表現のための日本語パブリックスピーキングに関する研究」（研究代表者：深澤のぞみ，研究分担者：山路奈保子，須藤秀紹，研究協力者：テキ東娜，陳会林）（課題番号：25370585）の助成を受けて行っている。

<謝辞>

データの収集や翻訳の一部について、北京師範大学大学院生（当時）の于霄氏の協力を得た。感謝の意を表したい。

<注>

- 1 TED は、価値あるアイデアを世界に広めることを目的とした非営利団体で、様々な分野の人々が行ったプレゼンテーションを動画で提供している。
<http://www.ted.com/talks/browse?language=ja> （2014 年 6 月アクセス）
- 2 LINE（ライン）は、スマートフォンやコンピュータ上で使うことのできる、メッセージを送受信できるソフトウェアのことである。世界的に普及し、日本でも若者を中心に広く使用されている。
- 3 Swales(1990)は、もともと理工系論文の IMRD 構造(Introduction-Method-Result-Discussion から成る構造)にムーブ（表現意図）の概念を取り入れ、さらに論文の構造を詳しく分析した。日本語の論文や研究発表などに関してこの手法を用いて分析した研究には木本（2006）、大島（2009）、野口他（2006）、林他（2009）などがある。
- 4 日本語への翻訳の際には、日本語の文としての通りのよさを優先して意識することはせず、原文に忠実に文字通りに訳して、中国語のスピーチの特徴が明らかになるように留意した。
- 5 例文は、まず中国語の簡体字で示し、（ ）内に資料番号（表 1 による）と日本語訳を記す。
- 6 中国では、文字数や発音などの一定の規則に基づき作られた一対の句を、門の両側に貼る習慣がある。祝意の表現や縁起かつぎの機能を持つ。

<参考文献>

東照二（2006）『歴代首相の言語力を診断する』研究社

- 東照二 (2014)『なぜ、あの人の話に耳を傾けてしまうのか「公的言語」トレーニング』
光文社新書
- 深澤のぞみ・ヒルマン小林恭子 (2012)「日本語式辞スピーチの構成要素と展開パターン
ー日本語パブリックスピーキングのージャンルの特徴としてー」『専門日本語教育
研究』14, 27-34
- 深澤のぞみ (2013)「パブリックスピーキングとしてのアカデミックプレゼンテーション
における聴衆重視の仕組みー式辞スピーチとの比較からー」『応用言語学研究論集』
6, 40-53
- 林洋子・国吉ニルソン・野口ジュディー (2009)「工学系修士論文口頭発表のムーブ解析」
『工学教育 (J. of JSEE) 』57-6, 137-143
- ヒルマン小林恭子・深澤のぞみ (2009)「日本語のビジネススピーチの特徴と日本語教育
への活用の可能性」『JSAA-ICJLE2009 日本語教育国際研究大会予稿集 (オーストラ
リア ニューサウスウェールズ大学) 』123
- 平井一弘 (1992)「再考：福沢諭吉と演説ー「演説」とパブリック・スピーキング」『大妻
女子大学紀要 文系』24, 63-77
- 平田オリザ・松井孝治 (2011)『総理の原稿ー新しい政治の言葉を模索した 266 日』岩波
書店
- 木本和志 (2006)「法学系論文の序文に見られる文章構造の分析ー民法，商法，知的財産
権法系論文を対象にー」『専門日本語教育研究』8, 19-26
- 野口ジュディー・林洋子・国吉ニルソン (2006)「工学系修士論文口頭発表の質疑応答時
におけるムーブ (表現意図) 分析」『第 8 回専門日本語教育学会研究討論会発表要
旨集』
- 大島弥生 (2009)「社会科学系の事例・史料にもとづく研究論文における論証の談話分析」
『専門日本語教育研究』11, 15-21
- Swales, John M. (1990) *Genre Analysis: English in Academic and Research Settings*,
Cambridge University Press
- ロマーン ヤコブソン (1973)『一般言語学』(川本他訳) みすず書房
- 劉振前・邢梅萍 (2000)「漢語四字格成語語義構造的対称性与認知」『世界漢語教学』1
- 宇佐美まゆみ・肖婷婷・戴琦・高娃・李宇霞・仇曉妮 (2007)「基本的な文字化の原則中
国語版 (Basic Transcription System for Japanese: BTSJ) の中国語への応用につ
いて」 <http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/usamiken/btsc.pdf> (2016 年 1 月アク
セス)